



# 令和6年度教育課程研究集会 中学校 音楽

音楽科の指導における  
「主体的・対話的で深い学びの  
視点からの授業改善」について

令和6年8月  
奈良県教育委員会事務局  
義務教育課 教育統計係  
指導主事 鳥羽 愛

# 育成を目指す資質・能力

学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか  
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力、判断力、表現力等

# 音楽科において育成を目指す資質・能力

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

知識及び技能

(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

学びに向かう力、人間性等

# 音楽的な見方・考え方

音楽に対する感性を働かせ、  
音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、  
自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。

音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして  
感じ取るときの心の働き



音の動きが羽のように軽やかだ

この響きは輝かしくて美しい



# 音楽的な見方・考え方

音楽に対する感性を働かせ、

音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、

自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。

## 音や音楽を捉える視点

音楽を形づくっている要素

音色、リズム、速度、旋律

テクスチュア、強弱、形式、構成



# 音楽的な見方・考え方

音楽に対する感性を働かせ、  
音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、  
自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。

音楽表現を創意工夫したり音楽を解釈し  
評価したりするなどの学習が深まっていく。



# 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

1. 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。

- 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返り、自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。
- 学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか。



# 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

2. 音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図る。

他者と関わりながら音楽表現を創意工夫して音楽で表したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりできるようにすることが重要。



# 主体的な学びを実現させるためには

音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要。

- ・ 音楽的な特徴を探ったり、楽曲の背景との関わりを考えること。
- ・ 表したい音楽表現や音楽のよさや美しさなどを見いだすことに関する見通しをもつこと。
- ・ イメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えること。



# 対話的な学びの実現のためには

一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりすることが重要。

- 客観的な根拠をもとに他者と交流し、自分なりの考えをもったり、音楽に対する価値意識を構築したりしていくこと。
- 対話の内容を実際に音や音楽で確認しながら実感を伴った学習を進めていくこと。
- **対話の対象**  
生徒同士、生徒と教員、作者、楽譜、先哲など。



# 深い学びの実現のためには

生徒が音や音楽と出会う場面を大切にし、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わることができるようにすることが重要。

知覚・感受したことを言葉や身体の動きなどで表したり比較したり  
関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について  
他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付けること。



- 題材などのまとまりを見通した学習を行うにあたり、題材で育む資質・能力を明確にすることが大切。
- 音楽科の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方である音楽的な見方・考え方が学びの深まりの鍵。
- 生徒の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要。